

事業立地の拡大で自律経営を実現

# 株式会社丸中

東京都トラック協会・中央支部

多様なニーズに  
臨機応変に対応

株式会社丸中の前身は、昭和12年に千代田区神田紺屋町で創業した中川運送店である。後に日本橋室町へ移転し、昭和30年には丸中運輸株式会社として法人化。昭和44年に、現在の株式会社丸中へ社名変更した。「運輸業だけでなく、異業種への展開を想定した社名と聞いている」と快活に話す中川卓三社長は、創業家の三代目である。

平成17年には倉庫部門を分社化した丸中倉庫運輸株式会社

と合併統合。物流センターのある東雲に本社移転して以降、保管、輸送関連で高付加価値サービスを提供。併せて酒類販売等を展開している。

主な顧客には大手電機メーカーと金融機関があり、事業の拡大発展、刷新等にもなう様々なニーズに適切迅速に応えて信頼を獲得した。部品、業務関連書類の輸送、販促印刷物の更新から社員寮の引越しに至るまで幅広い業務を手がけ、提供するサービス内容は変化しながらも、長年にわたる取引が続いている。



江東区東雲の同社社屋とトラック。

東京江東区東雲にある株式会社丸中は、運送業・倉庫業の物流関連をはじめ、酒類の輸入販売等の多様な事業を行っている。同社はどのように事業領域を広げ、新規分野を取り込んでいったのか。具体事例を紹介いただきながら、中川卓三社長のポリシーと安全対策をうかがった。



中川卓三代表取締役社長

マーケットインの発想で  
事業に変化を取り込む

製造部門の海外移転が進み、企業合併やグループ会社の設立も相次ぐなか、同社は産業界全体の変化をふまえた新たな業態と実需にあったサービスを模索してきた。

初期投資や維持コスト、需要の動向を見極め、5年前に本社ビルに400坪の定温倉庫を併設。立地条件を活かし、多頻度でスピーディな配送を提供するとともに、品質保持の面でも付加価値を高めた。

長く現場経験を重ねてきた社長は、「現場で見えること、現場だから分かることがある」という。取引先の現況とリアルなニーズを直に把握でき、世間話がきっかけになって商談、依頼に結びつくこともある。

また、既存の取引先を含めたいろいろな場所でのコミュニケーションが、新規事業のヒントになることも少なくない。構想段階では可能なかぎり選択肢を広げ、発注先との連携、共有事業化も積極的に交渉する。同社の産業廃棄物事業や定温倉庫の建設は、当初の計画を実需に見合う形態に改編して実現したものである。

また、同社のワインの輸入・販売事業は「顧客会社からの受注に左右されることなく、自社でコントロールする事業部門をもちたい」という意図から発足された。輸送業務の範囲だけでは、値下げ競争になってしまいがちだが、商品企画、運営、管理を評価につなげることができ。都内と臨海地域をカバーする輸送力、高品質での保管が可能な同社のキャパシティと特性をフルに活かせる事業だ。

平成22年にはネットショッ

プをオープン。同社が扱う銘柄がワインコンペで入賞を果たし、評価も高まっている。

多様な接点をもって  
意欲のある担い手を育成

人材確保は、業界全体が直面している課題だ。キャリアをもっている良い人材は、転職市場では見つけにくい。同社では新卒を積極的に採用している。

潜在力は未知数で人材育成には時間とコストもかかるが、期待も大きい。また、新規の業務に対するキャパシティも見込める。採用する際の第一のポイントは、「元気がよいこと」。そして「素直なこと」だという。

社長は、若手や新入社員に日常的に声をかけ、様々なかたちで関わる。オフィシャルスポンサーとなっているフットサルチームの試合を一緒に観戦したり、商品の輸入先イタリアへのワイナリー視察にもともなう。

Graze



取材時にも明るさが印象的だったスタッフのみなさんと中川社長。(右上) 同社で輸入販売も行っているイタリアワイン。

Company Profile

## 株式会社丸中

- ◆所在地：東京都江東区東雲2-12-23
- ◆代表取締役社長：中川卓三
- ◆資本金：2,000万円
- ◆組合加入年月：昭和46年5月
- ◆種目別共済契約車両数 対人10両、対物10両